

第633号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2021年12月16日
 発行責任者 喬木村公民館長 市瀬 徹
 編集責任者 公民館編集部 仲田 久志
 印刷 龍共印刷株式会社

令和三年度 美しい郷の村祭り
コロナ禍でも躍動する喬木のか!

令和三年度喬木村総合文化祭が十一月八日〜十四日の七日間、文化祭ウィークとして開催され、展示会場だけでも延べ二千人を超える皆さんにご来場いただきました。
 各展示会場に並んだ、お子さんや、サークル・分館の皆さんの作品は、コロナ禍という環境の中でも頑張っておこなった活動が表れているように感じました。また、会場で放映した各団体のPR動画も、多くの方にご覧いただくことができました。
 来年こそは、マスクの無い笑顔で、喬木村のお祭りが開催できることを祈ります。



保育園のお子さんたちも、自分やお友だちの作品を見に来てくれました！



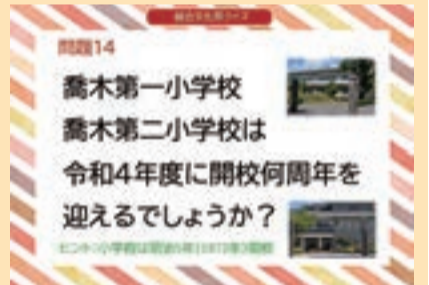
阿島傘とPR動画の共演！華やかさが際立ちました。



どの作品も力作です！



ちょっと難しい文化祭クイズ！
全部の答えがわかりましたか？



椋図書館で配ったむくにゃんコースター



今年度は、椋記念館図書館、みんなの広場アスボでも文化祭の展示を行いました。各会場では、イベントも開催し、文化祭を盛り上げました。

ステージ発表では見ることのできない活動が見れるのがPR動画の良さです！



あの時

我が家は通称「りんご屋」と言われている。祖父が始めたりんごづくりは村内でも早い方だと思う。私がかつどの頃は家の周りの果樹園には、国光や紅玉と二十世紀ナシが植わっていた。休日には姉と競争しながらナシの袋掛けをしたことを思い出す。りんごとナシから桃に変わり、今は干柿にする市田柿だけを栽培する農家になった。毎年十月末から十二月末までの二か月間は、干柿づくりを追われている。今年柿の生り年なのか、我が家では例年の二割増の生柿が収穫できた。

「カガミジシ」
 昭和四十四年

【その三】
 カガミジシは、カヤ山の中で、また、ぐつすりねむりこんだ。
 犬と人間のおいをかいたとき、カガミジシは目をさました。むつくりと起き上がった。

椋十ものがたり 73

『椋十全集』掲載作品
 椋十頭影会 久保田 毅

カガミジシは用心ぶかいイノシシであった。…にげだすのがいちばんよいと考えた。
 源助じいは、カガミジシにげたとされる山々をさがしまわったが、発見できなかった。
 「気むずかしくなっている源助じいのところ、三人の狩人がやって来た。…カヤ山にイノシシはいりこんだ形跡がある。そこで、狩りのかしらになってくれるようにとたのみこんだのである」
 その足あとの中に、とくべつ大きいやつを見かけなかったかと源助じいは聞いた。

「ありがとうございました、ありがとうございました。…カガミジシの足あとを見たと聞いていましたぞ」
 源助じいは、じつと聞いていたが、「うん、よしやる」と大声でいうのであった。…
 狩人たちが、源助じいの庭先に集まった。

「さあ、やるぞ！源助じいは大きな声でさげんだ。源助じいは計画をねってきたのであろう。狩人たちは感心した」



「…足あとは、ヘゴやぶに入ったことをしめしていた。」
 ヘゴやぶの中は、人間と鉄砲とが近づけない安全な場所だと、カガミジシは感じていた。

「カガミジシの足あととは、ぬた場でぶつりと切れてしまった」
 ……源助じいの顔を見ると、犬が「ワン」となき声をあげた。カガミジシの足あとを見つけたのだ。…
 「…足あとは、ヘゴやぶに入ったことをしめしていた。」
 ヘゴやぶの中は、人間と鉄砲とが近づけない安全な場所だと、カガミジシは感じていた。

「カガミジシも犬たちも、一か所にくぎづけになっていたのだ。」
 狩人たちは、銃をかまえてじつと待った。
 その時、犬の悲鳴が聞こえてきた。きずつかず帰ってきたのは、三頭のうちタローだけであった。
 源助じいは、タローにカガミジシを追い出してくれという、タローの頭をそっとたたき、ヘゴやぶを指さした。
 タローはしぶしぶと、へ

「源助じいは、かっとならぶをたてた。『いくじなしめ、かかれ！』
 大声でどなりつけた。タローは二声なくと、ヘゴやぶの中にかげこんでいった。…
 源助じいが胸おどらせて鉄砲をかまえた時、意外な声を聞いた。キーンというタローの悲鳴だ。…タローは、カガミジシのためにやられてしまったのだ。…」
 (つづく)

第34回 椋鳩十夕やけ祭

第34回 椋鳩十夕やけ祭の報告

椋鳩十記念館・記念図書館長 菅 沼 利 光

十一月二十一日(日)、第三十四回「椋鳩十夕やけ祭」を、福祉センターにおいて開催いたしました。昨年度は、コロナ禍のため、記念講演会は延期。椋鳩十賞読書感想文コンクールも、市瀬直史喬木村長が、近隣の小中学校に直接かけて表彰式を行いました。遠隔地の受賞者には、賞状や記念品を郵送し、該当校の校長先生より、授与していただきました。



令和3年度
【第34回 椋鳩十賞読書感想文コンクール】
入賞者一覧

◎椋鳩十賞

部 門	氏 名	学校名・学年	感想文タイトル
小2年	津田 維摩	所沢市立中富小学校	なかまができたね
小4年	伊藤 拓斗	飯田市立伊賀良小学校	「きんいろのあしあと」を読んで
小6年	原 さとか	喬木村立喬木第一小学校	親子の愛の力
中3年	羽生 彩華	喬木村立喬木中学校	心に誓ったこと

◎優秀賞

部 門	氏 名	学校名・学年	感想文タイトル
小2年	本多 和奏	高森町立高森南小学校	おとうさんづるのやさしさ
小4年	原 伊織	喬木村立喬木第一小学校	心で感じた色
小5年	横田 和樹	福岡教育大学附属久留米小学校	深い愛情と強い信頼
中2年	松下 郁果	高森町立高森中学校	家族の強い意志

まずは、椋先生作詞「心の海」の斉唱です。コロナ感染予防のため、声を出さず心の中で歌いました。心にしみ入るような歌詞をかみしめながら、CDから流れる合唱を聞きました。

続いて「第三十四回椋鳩十賞読書感想文コンクール」の表彰式です。今年は、県内外から四百三十七点の応募がありました。昨年度の応募数は、四百八十七点ですので、昨年度よりは、五十作品少なくなりました。応募作品は少なくなりましたが、コロナ禍の中、各校の先生方や保護者の皆様の力強い後押しにより、個人での応募や学級での応募が増えています。昨年度は、二十五学校の応募が、本年度は、二十八学校の応募と、昨年度に比べ三学校ではありますが、増加がみ

られたことは、うれしいことでした。応募をいただいた、各学校の児童生徒の皆さん、先生方、関係の皆さんに、心より感謝申し上げます。

喬木村からは「椋鳩十賞」に原さとかさん(第一小六年)、羽生彩華さん(喬木中三年)が「優秀賞」は、原伊織さん(第一小四年)が受賞されました。

表彰式では、受賞者を代表して原さとかさん(第一小六年)、羽生彩華さん(喬木中三年)に、感想文を発表していただきました。

午後三時から、絵本作家 宮西達也先生による記念講演会「にゃーごのやさしさ、ティラノのおもしろい」です。

宮西先生は、子ども時代の記憶をヒントにして、絵



講演の中で、「はい」や「はらへこへびくん」おあさんだいすきだよ」ドロドロロンキーとゆうす



本を書いているそうです。講演の中で、「今が大切。勉強も大切。感動すること。人を思いやること、ステキなことをいっぱい心にたためよう。それが、将来役に立つときがきつと来る。」と呼びかけられました。

宮西先生は、優しさと思いやりをテーマにして、絵本を創作しているそうです。また、大人の感情と違う感情を子どもは持っている。子どもたちは、面白いという感情が大好き。同じ本を何度も「読んで。読んで。」と言うのは、面白いという感情をまた体験したいからだ、という言葉も心に残りました。

会場は、宮西達也ワールドとなり、時間の過ぎるのも忘れてしまうほどの笑い、笑顔いっぱい、幸せいっぱい、心の底から楽しめた講演会でした。

また、今年も「夕やけ祭」とあわせて、十一月二十日(土)～二十七日(火)まで、椋鳩十記念館ギャラリーに於いて「夕やけ祭企画展 椋鳩十記念館のお宝

椋鳩十賞 (小学校1・2年の部)

なかまができたね

「ひとりぼっちのつる」 理論社
埼玉県所沢市立中富小学校 二年 津田 維摩

ひとりぼっちのつる。ぼつんとして、かなしいかんじがします。どうしてひとりぼっちなのかな、と気になって、読んでみました。

ひとりぼっちのつるは、こどものつるでした。おとうさんづるも、おかあさんづるも、いません。えさは、自分でさがさなければいけません。ほかのつるのなわばりに入ると、頭をつつかれます。よるは、てきことが気になって、ゆっくりねむれません。自分をまもってくれるつるはいません。いつもひとりぼっちでした。毎日つらいだろうな、さびしいだろうな。ぼ

くは、かなしくなりました。あるとき、ひとりぼっちのこどものつるが、きつねにおそわれてしまいます。このぼめで、ぼくはどきどきしていました。つるがあぶない。きつね、あつちに行け。ぼくは、きつねをやっつけたくなりました。

ひとりぼっちのこどもをつるがにげているとき、つるの親子にでもあります。その中にいたおとうさんづるに、たすけられるのです。きつねに気づいたおとうさんづるは、くちばしやつばさでたたかいます。きつねに立ちむかうなんて、すごいな、強いな、と思います。

「ひとりぼっちのつる」は、もう、ひとりぼっちではなくなりました。これからは、なかまがいます。おとうさんづるのように、なかまをたいせつにする、やさしいつるになると、ぼくは思います。

く北島新平画伯寄贈絵画展」を開催することができました。

今年三月五日にご逝去された北島新平画伯。北島画伯は、「大造じいさんとガン」や「アルプスのクマ」「山の民とイノシシ」「片耳の大シカ」など、椋鳩十作品の挿絵も多く描かれています。五月、北島新平画伯のご遺族より、三〇点の絵画を寄贈していただきました。この絵画を公開展示できたことは、うれしいことでした。ありがとうございます。

最後になりましたが、「夕やけ祭」にご参加いただきました皆様、実行委員をはじめ関係者の皆様から御礼を申し上げます。

賞十 十賞 (小学校3・4年の部)



「きんいろのあしあと」を讀んで
「きんいろのあしあと」 童心社
飯田市立伊賀良小学校 四年
伊藤 拓斗

ぼくがこの本を讀もうと思つたのは、タイトルと表紙のキツネがどう関係しているのか気になつたからです。讀む前は、キツネの親子がのこした足あとに関する話だらうな、くらいにしか考えていませんでした。でも讀み終わって見ると、キツネの親子の深い愛じょうや、やさしい人間の心のあたたかさを感じる物語だということに気づきました。

正太郎は、とても心のやさしい少年です。山からつかまえてきた子ギツネがとつぜんかみついても、おこらずに子ギツネを見ています。夜に子ギツネがなき出すと、さみしくてお母さんをよんでいるのかもしれないと心配してあげます。親ギツネはすぐに子ギツネを助けてあげるのがむりだとわかつていても、自分たちがえさを食べられずにやせてしまつても、子ギツネのためになんとかしようと思つます。きつと正太郎もそんな親ギツネの愛じょうに心をうたれたのです。ぼくは、この本を讀んでキツネは親子の愛じょうがどれほど深い動物だと知り、子ギツネを親ギツネの手にかかしてあげようとがんばる正太郎は、なんて心のやさしい少年なんだらうと思ひました。そのやさしさはちゃんとキツネたちにも伝わっていたから、氣をうしなつた

とても大事なことだと感じました。だからこれからぼくも、「自分の目で見て、自分で感じたこと」を大切にしながら生活していきたいと思ひます。

ぼくは、この本で初めて椋鳩十さんを知りました。とても心があたたまるお話だったので、もつと椋鳩十さんの本を讀んでみたくなりました。

賞十 十賞 (小学校5・6年の部)



親子の愛の力
「月の輪グマ」 理論社
喬木村立喬木第一小学校 六年
原 さとこ

「月の輪グマ」は、親子の深い愛を感じ取れる作品だ。同時に、いつも子どもがグマが子グマにカニを食べさせている場面。子グマは食べるが、母グマは食べない。母グマは子グマより体が大きいから、食べる量ももちろん多いのに、子グマたちの成長を一番に考え、自分自身がまんしてこの場面から、母グマが子グマたちを大切に、深い愛情を注いでいることが分かる。

また、子グマが母グマから離れてしまい、作者たちにねらわれる場面では、寝ていた母グマがとつぜんはね起き、子グマのいる岩のところにまでかけつけた。私は、親というものは、どんな

分を守る、という親として教えるべき責任と子どもに対する強い思いを感じた場面だ。

そして、まだ子グマが危機を脱することができずにいると、母グマは、滝つぼめがけて飛び込んだ。大きな音とともに、ものすごい水けむりがたつた。あんなに高いところから飛び込んだのでは、いくら強いクマでも助かりっこない、死んでしまったに違いない。作者も荒木もそう確信した。私も、ここを讀んだとき、母グマの命は終わったと思つた。これから子グマはどうやって生きていくのか、ということまで考えてしまった。

しかし、母グマは動き始めた。母グマを敵としていた荒木や作者でさえ、生きていることを喜び、涙をこらえた。母グマが死ねば、子グマは必ずとれる。それなのに、生きていくことをなぜ喜んだらうか。

私は、親子の愛の力が作者や荒木の心まで変えてしまったのだと思う。それほどまでに強い力だったのだ。

母グマはその後、子グマをつれて、歩き去つていった。親が子どもを愛する力、子どもが親を愛する力というものは、自分や相手の状況を変えることができる。そして心も動かせる程の大きなものである。これは、動物も人間も変わらない。これからも、母グマと子グマたちは厳しい自然界を親子の愛の力で生き抜いていくだらう。

でも見たこともないようなずば抜けて大きなサルだ。数十頭のサルの連合軍を率いて歩き、サルのボスたちを手下にしている。サルとシカの島とも言える屋久島の、まさにサルの大王なのだ。そのヤクザル大王のホシは幼い頃、群れの中でひどくいじめられ、悲しくつらい思いをしていた。母ザルがわなにかかり、離ればなれになってしまったからだ。でもホシは決して屈しなかつた。あの時母ザルを助けられなかつた。強く賢く、心優しいボスザルになり、今度こそ大切な家族を守るんだ、とホシは強く心に誓っていたのだらう。不幸な出来事もつらい環境も全部受け入れ、それをバネにして力強く生きていくホシは、なんて心が強くきれいで勇敢なだらう。命のお祭り場のような屋久島の森で生きていくホシの姿は、悩みながら懸命に青春を生きる私たちみたいだ。困難に負けず進んでいく勇氣と、前向きな気持ちを私たちに与えてくれた。

それからは、何年経ち、ホシは大勢のサルを率いるヤクザル大王まで成長した。森へ帰った母ザルのカゼ子と父ザルで前の群れのボスザルも「頼んだ。しかし、ヤクザル大王のうわさを聞きつけた人間の身勝手な行動により、カゼ子と前のボスザルは命を落としてしまう。さらに

はホシまで厳しい自然により、命を落とす。狩人の大六は、その三頭にどんな思いで落ち葉をかけたのだらう。悲しみとやり切れない気持ち、身勝手な人間への怒り。落ち葉が重なることに、大六の心にもカゼ子やホシの思い出がよみがえり重なるにつれて、わが子のように大切に思い、見守つていたカゼ子。森で幸せに暮らしていたほしかつた。あの時の負けん気の強い子ザルがヤクザル大王になるとは。大六の気持ちを考えると、あまりに切なく心が締めつけられるようだ。

私は、ふと思つた。カゼ子と前のボスザルは運悪く流れ弾に当たってしまったのだらうか。大自然のはかり知れない何かを感じる、屋久島はそういう島だ。カゼ子と前のボスザルは何かを感じ、ホシを命をかけて守つたのではないか。ホシもまた、地震で崩れた岩に運悪くぶつかっただけとは思えない。もうすでに息絶えていたかもしれないが、父と母が寄り添うようにねむるほらあなを、崩れてくる岩から命をかけて守つたのではないか。幼い頃、大切な家族を守ると強く心に誓つたことを貫いたのだ。体が大きく力が強いだけではない。賢く、強い意志を持ったホシは、大王の名にふさわしい、堂々とした生き方だった。

親子がお互いを思う気持ちにはサルも人間も同じ

わたしは、「ひとりぼっちのつる」という名を聞いて、ひとりぼっちのつるが大きくなっていくお話かなあと思つていました。

でも、讀んでみると、ひとりぼっちのつるがきつねにたべられてしまうんじゃないかと、ハラハラするお話でした。

一ばんこわかつたところは、あしが生えているところ。あしが生えているのを知らないつるが、そのままえさをたべていたところでした。つづきに、「近づいてきたら、とびついてやろうと、ねらっていました」と書いてあったので、ぜつたいたべられてしまうと思つていました。わたしは、たべられないといいなあとねがつていました。

すると、きつねがとびつこうとしたとき、つるがたにしを見つけて、その方にむかつていったので、首ねつこをかまわずに、はねのはしにかみつかれただけですみました。とてもほつとしました。つるがきつねに氣がついてにげるとき、ほかのつるたちは空にま

上がった、なきさけぶだけ、ひとりぼっちのつるをたすけようとは思いませんでした。でも、つるがにげていく方で、つるの一家がえさをたべていました。そして、その一家の大きなおとさんづるは、まい上がろうとはせず、子どもをつるをまもってくれました。つるたちの中にも、こんなやさしいつるもいるんだなあとわたしは思ひました。

そして、そのつるの一家は、子どもをつるをなかにに入れてくれました。ひとりぼっちのつるは、一人ですみしい中、がんばつてきたから、なかに入れてもらつてうれしかったと思ひます。わたしも、おとさんづるみたいに、だれかこまってる人がいたら、ゆう氣を出して、その人をまもれる人になりたいです。

このお話を讀んで、わたしは、大きなおとさんづるの一家が、ずっとよかよくしてくれているといいなあと思ひました。

(優秀賞の残り三点は次号掲載)

賞十 十賞 (中学校の部)



心に誓つたこと
「ヤクザル大王」 南方新社
喬木村立喬木中学校 三年
羽生 彩華

ヤクザル大王、それは今でも見たこともないようなずば抜けて大きなサルだ。数十頭のサルの連合軍を率いて歩き、サルのボスたちを手下にしている。サルとシカの島とも言える屋久島の、まさにサルの大王なのだ。そのヤクザル大王のホシは幼い頃、群れの中でひどくいじめられ、悲しくつらい思いをしていた。母ザルがわなにかかり、離ればなれになってしまったからだ。でもホシは決して屈しなかつた。あの時母ザルを助けられなかつた。強く賢く、心優しいボスザルになり、今度こそ大切な家族を守るんだ、とホシは強く心に誓っていたのだらう。不幸な出来事もつらい環境も全部受け入れ、それをバネにして力強く生きていくホシは、なんて心が強くきれいで勇敢なだらう。命のお祭り場のような屋久島の森で生きていくホシの姿は、悩みながら懸命に青春を生きる私たちみたいだ。困難に負けず進んでいく勇氣と、前向きな気持ちを私たちに与えてくれた。

それからは、何年経ち、ホシは大勢のサルを率いるヤクザル大王まで成長した。森へ帰った母ザルのカゼ子と父ザルで前の群れのボスザルも「頼んだ。しかし、ヤクザル大王のうわさを聞きつけた人間の身勝手な行動により、カゼ子と前のボスザルは命を落としてしまう。さらに

はホシまで厳しい自然により、命を落とす。狩人の大六は、その三頭にどんな思いで落ち葉をかけたのだらう。悲しみとやり切れない気持ち、身勝手な人間への怒り。落ち葉が重なることに、大六の心にもカゼ子やホシの思い出がよみがえり重なるにつれて、わが子のように大切に思い、見守つていたカゼ子。森で幸せに暮らしていたほしかつた。あの時の負けん気の強い子ザルがヤクザル大王になるとは。大六の気持ちを考えると、あまりに切なく心が締めつけられるようだ。

私は、ふと思つた。カゼ子と前のボスザルは運悪く流れ弾に当たってしまったのだらうか。大自然のはかり知れない何かを感じる、屋久島はそういう島だ。カゼ子と前のボスザルは何かを感じ、ホシを命をかけて守つたのではないか。ホシもまた、地震で崩れた岩に運悪くぶつかっただけとは思えない。もうすでに息絶えていたかもしれないが、父と母が寄り添うようにねむるほらあなを、崩れてくる岩から命をかけて守つたのではないか。幼い頃、大切な家族を守ると強く心に誓つたことを貫いたのだ。体が大きく力が強いだけではない。賢く、強い意志を持ったホシは、大王の名にふさわしい、堂々とした生き方だった。

親子がお互いを思う気持ちにはサルも人間も同じ

わたしは、「ひとりぼっちのつる」という名を聞いて、ひとりぼっちのつるが大きくなっていくお話かなあと思つていました。

でも、讀んでみると、ひとりぼっちのつるがきつねにたべられてしまうんじゃないかと、ハラハラするお話でした。

一ばんこわかつたところは、あしが生えているところ。あしが生えているのを知らないつるが、そのままえさをたべていたところでした。つづきに、「近づいてきたら、とびついてやろうと、ねらっていました」と書いてあったので、ぜつたいたべられてしまうと思つていました。わたしは、たべられないといいなあとねがつていました。

すると、きつねがとびつこうとしたとき、つるがたにしを見つけて、その方にむかつていったので、首ねつこをかまわずに、はねのはしにかみつかれただけですみました。とてもほつとしました。つるがきつねに氣がついてにげるとき、ほかのつるたちは空にま

上がった、なきさけぶだけ、ひとりぼっちのつるをたすけようとは思いませんでした。でも、つるがにげていく方で、つるの一家がえさをたべていました。そして、その一家の大きなおとさんづるは、まい上がろうとはせず、子どもをつるをまもってくれました。つるたちの中にも、こんなやさしいつるもいるんだなあとわたしは思ひました。

そして、そのつるの一家は、子どもをつるをなかにに入れてくれました。ひとりぼっちのつるは、一人ですみしい中、がんばつてきたから、なかに入れてもらつてうれしかったと思ひます。わたしも、おとさんづるみたいに、だれかこまってる人がいたら、ゆう氣を出して、その人をまもれる人になりたいです。

このお話を讀んで、わたしは、大きなおとさんづるの一家が、ずっとよかよくしてくれているといいなあと思ひました。

(優秀賞の残り三点は次号掲載)



重大ニュース

三六災から六十年 あの日何が起こったのか

昭和三十三年六月二十六日から二十九日にかけて伊那谷は台風と梅雨前線の影響で豪雨となった。飯田測候所では二十七日九時から翌日の九時までの二十四時間で三百二十五mmの最高を記録した。

総雨量五百七十九mmとなり一週間で一年間の三割を超える雨がふった。各地で土石流や河川の氾濫などが起こり伊那谷全体で死者、行方不明者は百三十六名家屋の全壊、流失、半壊は一五〇〇戸になった。喬木村も、全村いたる所で土砂くずれ、川の増水などによる被害が発生した。今日では短時間に大量の雨が降るといふ事がよく発生する。三六災を忘れる事なく備えをしつかりしたい。



武田信玄生誕五〇〇年記念 第十四回狼煙リレー

武田信玄生誕五百年の年にあたる今年の狼煙リレーは、根羽村柚路峠から甲府市躑躅ヶ崎館までをつないだ。

天気にも恵まれた中、喬木村では、加々須茶臼山、

富田城山の二カ所でそれぞれが近隣の様子を見ながら点火すると、歓声が上がっていた。

狼煙は約三百キロを二時間二十分でリレーした。



村議選 定員に満たず

六月に村議選が行われた。今回は選挙になるかとの期待に反し、またもや定員に満たず一〇名が当選となった。勢いのある高森町の選挙と比較された記事が新聞に載った時はとても残念だった。

しかし新人議員も増えた。新しい風を吹き込んで、魅力ある喬木村へと議員皆さんの活躍を期待する。

村内各所で工事始まる

・リニア中央新幹線の関連工事
リニア関連の工事が各所で行われている。天竜川を渡る橋梁建設、堰下ガイドウェイヤードなど

・統合保育園建設
令和四年度中に開園予定の統合保育園は中原に計画

され、造成が終わる。
・三遠南信自動車道
工事の主体が喬木村に移りインターやトンネル工事が始まった。

・県道大島阿島線加々須地籍の迂回路
昨年七月の集中豪雨によりがけ崩れで通行止めとな



なった場所に二つの橋をかけ復旧工事が始まる。

(SDGs)
シリーズ連載始まる

持続可能な開発目標として、十六の目標、その目標を達成するための手段として、

て十七番目にパートナーシップを掲げたSDGs。公民館報たかぎでも連載が始まりました。目標は大きく「経済」「社会」「環境」の分野に分類され、今後十七個の目標を掘り下げて紹介していきます。それぞれの要素が、他の事象に影響を与え、繋がっているという事も注目すべき点です。まずは一人から、身近なところから始め、それが家族、地域、企業、国全体、世界全体にと広がっていく事を

令和三年度 村民マレットゴルフ大会開催

十一月二十八日(日)、大原机山公園マレットゴルフ場を会場に、公民館体育部主催の村民マレットゴルフ大会が開催されました。

本大会は、検温や消毒、体調チェックシートの提出など新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで開催しました。当日は四十二名の方が参加し、三名(四名ごとの組で二十七ホールをそれぞれ回りました。

当日は最低気温が氷点下となりましたが、天気は快

<村民マレットゴルフ大会結果(敬称略)>

【経験者男子の部】		【経験者女子の部】	
1位	木下 昭文	1位	木下 美穂
2位	笠野 高登	2位	小池 光子
3位	矢澤 数	3位	小菅るり子

【一般男子の部】		【一般女子の部】	
1位	桐生 英人	1位	下澤 修子
2位	湯澤 直幸	2位	福澤 治子
3位	羽生 裕一		

【小中学生男子の部】	
1位	福留 啓

※参加者数 42名(経験者男子(クラブ所属者)19名、経験者女子13名、一般男子7名、一般女子2名、小中学生男子1名)
※全27ホール、パー108。同スコアの場合は、年齢順で決定。



42名の方がマレットゴルフを楽しみました

晴の中、初めての方も含め、多くの方がマレットゴルフを楽しみむことができました。

ご参加いただいた方は大変お疲れ様でした。また大原机山公園マレットゴルフ

クラブの皆様につきましましては大会運営にご協力いただきましてありがとうございます。

結果は次の通りです。

次から次へと襲ってくるウィルスにふと昔の映画「復活の日」を思い出してしまつた。草刈正雄演じる生き残った主人公がボロボロの服で髪や髭もボサボサとなり衰弱した姿で現れる。この時のウィルスは猛毒「MM-88」であった。

つまらないことは考えないように、どんどん予定が入ってくる忘年会を羽目を外さず慎重に落ち着いて楽しみたい。

編集後記

今度はオミクロン株? い加減にして欲しい! やつと東京の息子が、名古屋の娘が、六月に生まれた姪っ子の顔を見られたと言うのに。

そ始めよう! みんなで関心を持つSDGs。

~公民館今後の予定~

- 2月中旬 ふるさとづくりフォーラム
- 2月27日 第2回 平和学習会講演会
- 3月6日 村民卓球大会 (予定より1か月延期とし、オープン大会として開催します)

喬木俳句会 霜月句会詠草

青空に銀杏並木の輝けり
冬紅葉人それぞれに道ありて

柿のれん夫と二人の影映す
大銀杏歴史訪ふ庭夕日映ゆ

曼殊沙華の白一輪に夫偲ぶ
窓辺より射し入る月や夜もすがら

宮島 高枝
村山たか子
田中 君子

垣根越し落ちて弾ける石榴かな
夕陽射し燃ゆるが如き紅葉山

幾人も逝きて侘しき石路の花
天龍を抱き山々眠りけり

やすらぎは晩年にあり鳶の舞ひ
下校する子等賑やかな紅葉道

青天を仰ぐ裸木いちぢななり
背筋伸び米寿の人や冬温し

境内に僧の影無く銀杏散る
生き抜けば成る様になるコロナ禍も

原 美恵
西元くにこ
市橋 ヨリ
松葉 孝子
吉川 照子